



Invention & Innovation
NITTA

環境対応型加硫ゴム系シート防水通気工法
ニッタパステシート



ニッタ化用品株式会社

ニッタパステシートの特徴 屋上防水用 環境対応型加硫ゴムシート

次世代環境対応型の
加硫ゴム系シート防水工法で
溶剤使用量を低減[※]し、
溶剤特有の臭気が
ありません。

※当社従来比

従来の
加硫ゴムシートのような
溶剤系接着剤の
乾燥時間が無く、
工期短縮に
つながります。

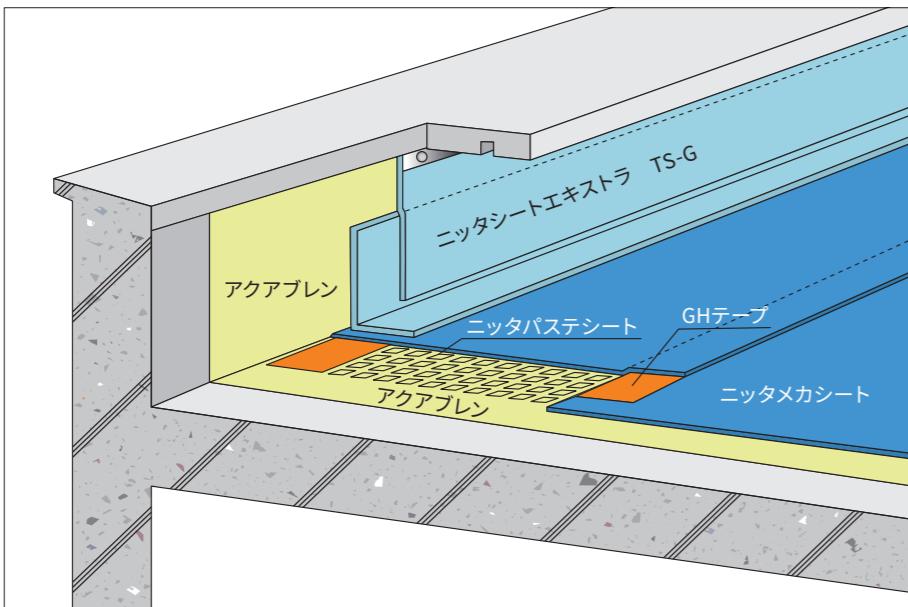
ニッタメカシートを
使用することで
鳥害対策効果を
発揮します。

優れた
下地追従性により、
ALC 下地や
デッキプレート下地に
使用できます。

加硫ゴム系シートは
酸性雨や塩害の
影響を受けることなく
優れた耐久性を
発揮します。

N-PS工法(環境対応型工法)

溶剤使用量を低減し、環境にやさしい工法です



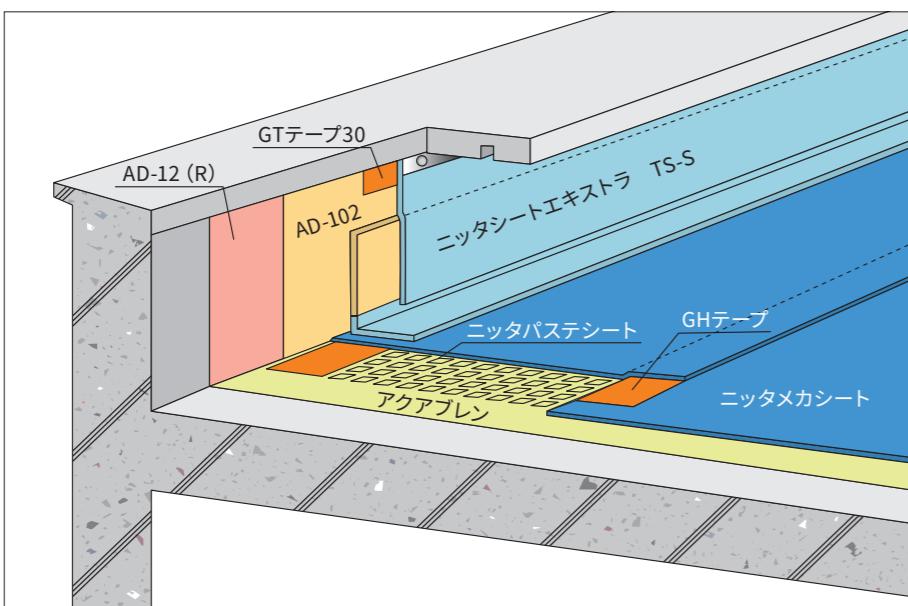
工程	1	2	3	4	5
	アクリルアクリレート 0.2kg	ニッタパステシート (平場) —	ニッタメカシートMS (平場) —	ニッタシートエキストラTS-G (立上り) —	カバーペイント 0.2~0.3kg

※実際の現場での納まりについては別途ご相談ください。

※本工法は通気工法に該当します。

501MS-PS工法(通気工法)

ニッタパステシートが下地スラブの水分を拡散、ベントSまで導いて排出させ、フクレを軽減する通気工法です



工程	1	2	3	4	5
	アクリルアクリレート 0.2kg	ニッタパステシート (平場) —	ニッタメカシートMS (平場) —	ニッタシートエキストラTS-S (立上り) —	カバーペイント 0.2~0.3kg

※実際の現場での納まりについては別途ご相談ください。

※本工法は通気工法のため、環境対応型工法には該当しません。



① 下地の確認・清掃

- 下地を確認し、ケレン、清掃をおこないます。



② プライマーの塗布

- プライマーとしてアクリルアクリレートを0.2kg/m²塗布します。
- ▲不陸が悪い場合は先に下地調整材にて下地処理をおこなってください。
- ▲アクリルアクリレートの攪拌は十分におこなってください。
- ▲液むらのないように塗布してください。



③ ニッタパステシートの張付け

- パステシート張付に先立ち外周にGHテープを張り付けます。
- パステシートをまっすぐに張り付けます。
- シートは突きつけで敷設します。
- ▲シート同士が重なり合わないように張り付けてください。
- ▲シート同士隙間を空けないでください。
- ▲ALC下地の場合は入隅部にTS-Gシートによる増張りをおこなってください。



④ ニッタメカシートの敷設

- パステシートの表面離型紙を剥がし、ニッタメカシートを敷設します。
- ▲シートを敷設する際には、空気を巻き込んだり、しわを作らないように張り付けてください。
- ▲シート敷設の際には、パステシート上に異物が無いか確認してください。



⑤ GHテープの挿入

- シートのジョイント部へGHテープ100を張り付けます。
- 張り付け後に熱風融着機で加温しながらハンドローラーで転圧します。
- ▲GHテープはジョイント部から1~3mmはみ出すように張り付けてください。
- ▲熱風融着機の温度は300~400°Cで設定してください。
- ▲熱風融着機でシートを焦がさないよう注意してください。



⑥ シートの転圧処理

- シート敷設箇所全体にローラーで転圧をおこないます。
- ▲ジョイントに口開きが無いか確認してください。



⑦ 立上りシートの敷設

- ニッタシートエキストラTS-Gシートの裏面離型紙を剥がし、立上り面に張り付けます。張り付け後にハンドローラーで転圧してください。
- ▲シートを敷設する際には、空気を巻き込んだり、しわを作らないように張り付けてください。



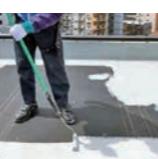
⑧ シート端末処理

- シート端末には剥離防止のため、押え金物を取り付けます。
- 押え金物上にシーリング材を打設します。



⑨ 脱気筒の取付け

- 敷設したシートを切開し、円形に脱気口となる孔を開けます。
- ベントS本体の裏側にGHシートを張り付け、開けた孔の真上になるように密着させ、ビスで固定します。
- ベントSの上部カバーを外し、筒部に脱気筒用増張りシートを通して、熱風融着機でシートを加温しながらハンドローラーで転圧します。
- 転圧後に上部カバーを再び取り付けます。



⑩ 仕上塗料の塗布

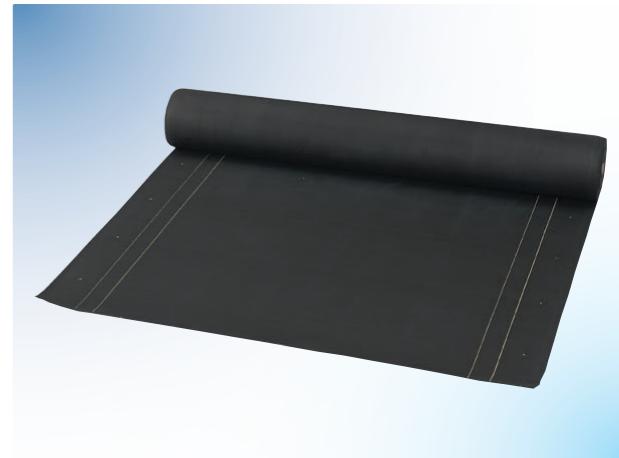
- 仕上塗料の塗布をおこないます。
- ▲仕上塗料の塗布量は製品ごとに異なります。製品詳細をご参照ください。
- ▲塗料の塗ムラ・液溜りが無いように注意してください。

品名	荷姿	材質又は主成分	用途
シート防水材			
ニッタメカシート MS	1.5mm ^t ×1200mm ^w ×15m ^l	EPDM	平場用シート
ニッタシートエキストラ TS-G	1.8mm ^t ×1000mm ^w ×10m ^l	粘着層非加硫ブチルゴム	立上用シート
ニッタシートエキストラ TS-S	1.2mm ^t ×1200mm ^w ×20m ^l / 10m ^l	EPDM	立上用シート
ニッタシートエキストラ TS-S	1.5mm ^t ×1200mm ^w ×10m ^l	EPDM	立上用シート
ニッタシートエキストラ TS-SN	1.2mm ^t ×1200mm ^w ×15m ^l / 10m ^l	EPDM	のり付き立上用シート
ニッタシートエキストラ TS-SN	1.5mm ^t ×1200mm ^w ×10m ^l	EPDM	のり付き立上用シート
下地処理材／プライマー			
アクアブレン	7kg×2袋／箱 18kg／缶	アクリル樹脂	プライマー
タイトA	18kg／缶	アクリル樹脂(エマルション系)	下地処理
プライマー AD-12(R)	15kg／缶	クロロブレンゴム(溶剤系)	一般用
接着材			
パステシート	1080mm ^w ×30m ^l	ブチルゴム	平場用接着シート
アクメボンド AD-102	15kg／缶	クロロブレンゴム(溶剤系)	一般用
定形シール材			
GHテープ100	0.8mm ^t ×100mm ^w ×30m ^l ×8本／箱	加温式ブチルゴム	平場シートジョイント用
GHテープ300	0.8mm ^t ×300mm ^w ×30m ^l ／本	加温式ブチルゴム	補強増張り用
GHシート300	1.2mm ^t ×300mm ^w ×10m ^l	加温式ブチルゴム	出入隅増張り用
カットテープ	1.1mm ^t ×100・120・150・200mm ^w ×20m ^l	EPDM	補強張り用
GTテープ30	0.8mm ^t ×30mm ^w ×40m ^l ×5本／箱	ブチルゴム(自然加硫)	シート端末用
不定形シール材			
ブチルコーティング	330m ^l ×10本／箱	ブチルゴム	シート端末用
仕上塗料			
カバーペイント WTC	15kg／缶(標準5色)	変性アクリル樹脂(エマルション系)	一般用
カバーペイント HTC	15kg／缶(標準3色)	EPDM(溶剤系)	一般用
カバーペイント YTC	15kg／缶(標準3色)	変性アクリル樹脂(エマルション系)	高反射・高耐候性塗料
SD フロアコート	20kg／缶(標準3色)	骨材入りEVA樹脂(エマルション系)	軽歩行用
脱気装置			
ベントS	2個／箱	ステンレス製	脱気筒
押え金物・笠木			
アルミアングル	2m ^l ／本	アルミニウム押出し型材	端末押え金物
アルミ水切	2m ^l ／本	アルミニウム押出し型材	ハンガー式水切材
アルミ笠木	2m ^l ／本	アルミニウム押出し型材	笠木
成形品			
ドレン NV・S	1セット／箱	本体:EPDM キャップ:アルミダイキャスト	改修用ドレン

ルーフィングシート

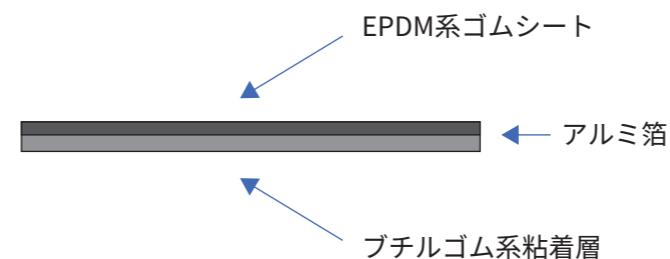
ニッタメカシート

ニッタメカシートはEPDMを主成分とし、JIS A6008(合成高分子系ルーフィングシート)一般複合加硫ゴム適合品です。耐候、耐オゾン、耐摩耗性に優れ、温度依存性が少なく、各種薬品に対して抵抗力があり、屈曲、伸長の繰返しによる物性変化が少ない、信頼性が高い防水シートです。



ニッタシートエキストラ TS-G

EPDMを主成分とし、裏面にブチルゴム(非加硫)を積層した立上り専用シートです。EPDMゴムシートとブチル層の層間にアルミ箔を積層させ、形状安定性を確保します。熱風融着機を使用しブチル面を軟化させることで接着します。



プライマー(下地処理材)

アクアブレン

ポリマーセメント系のプライマー(下地処理材)です。なお、下地の不陸調整が必要な場合は、タイトAもしくは一般的なカチオン系又はノニオン系下地調整材を用いて、事前に不陸調整を終えてから使用してください。

混合データ

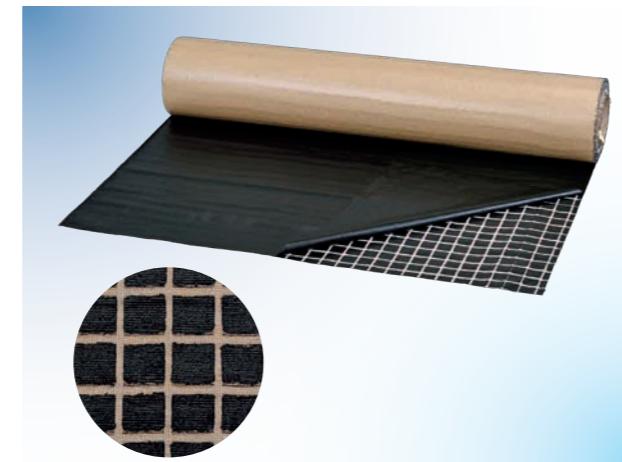
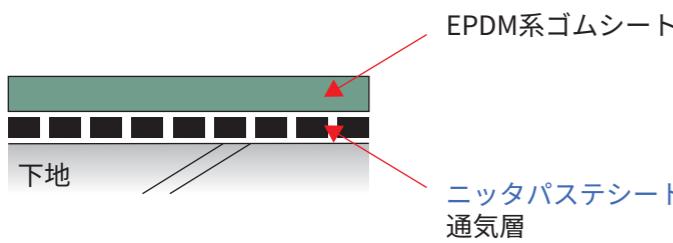
配合比	A材 (7) : B材 (9) : 水 (1)
比重	混合時 (1.15)・養生後 (1.23)
可使時間(23°C)	40 ~ 60 分

項目	使用重量(/m ²)	配合重量(/m ²)			施工間隔(23°C)
		A材	B材	水	
工程プライマー	0.2kg	0.09kg	0.11kg	0.06~0.09kg	0.5時間以上

接着シート

ニッタパステシート

基材にブチルゴムを積層したシート型接着材です。下地に敷設することで、下地とEPDM系ゴムシートをブチルゴムで強固に接着します。通気機能を有するため、脱気工法としての効果があります。



テープ状シール材／増張り用シート

品名	荷姿	用途
GHテープ100	0.8mm ^t ×100mm ^w ×30m ^l ×8本／箱	シートジョイント用テープ
GHテープ300	0.8mm ^t ×300mm ^w ×30m ^l ／本	シートジョイント用テープ
GHシート300	1.2mm ^t ×300mm ^w ×10m ^l ×1本／箱	増張り用シート
カットテープ	1.1mm ^t ×100mm ^w ×20m ^l ×6本／箱 1.1mm ^t ×120mm ^w ×20m ^l ×5本／箱 1.1mm ^t ×150mm ^w ×20m ^l ×4本／箱 1.1mm ^t ×200mm ^w ×20m ^l ×3本／箱	補強・増張りテープ

GHテープ

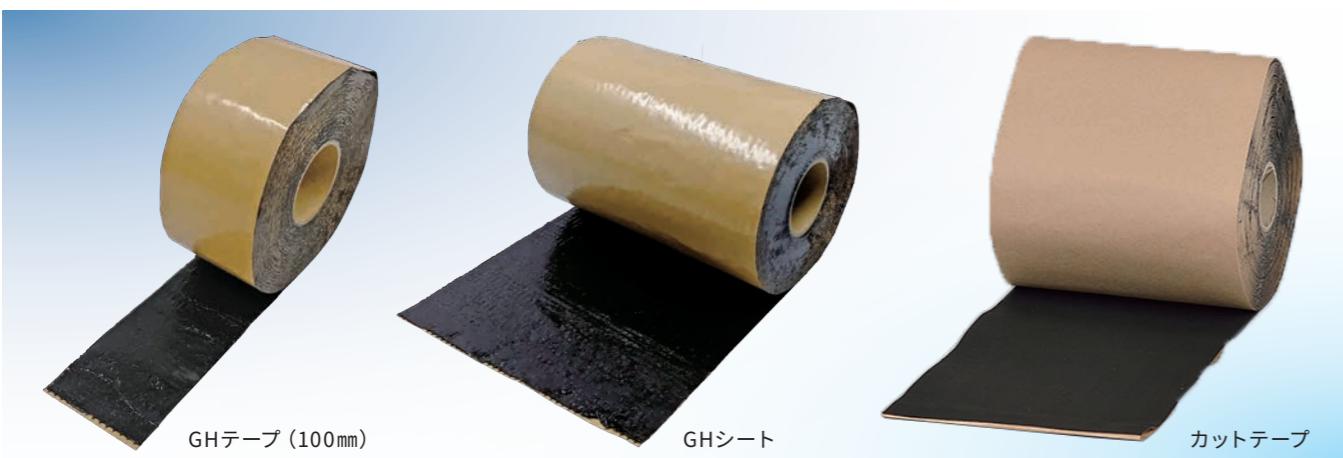
ブチルゴムを主成分とした非加硫ゴムテープで、ニッタメカシートとの接合に使用します。熱風融着機で加温することによりテープ表面を軟化させ、強固にシート同士を密着させます。

GHシート

ブチルゴムを主成分とした非加硫ゴムシートです。非常に柔軟性・粘着性に富み、複雑な形状にもよく馴染むシートです。熱風融着機で加温し、出入隅やドレン回りの増張りとして使います。

カットテープ

ブチルゴムを主成分とした非加硫ゴムシートです。非常に柔軟性・粘着性に富み、複雑な形状にもよく馴染むシートです。



仕上塗料

カバーペイントWTC

変性アクリル樹脂を主成分とした水性エマルション型塗料です。引火性がなく臭気もわずかで作業性が良く、防水層を傷めません。

カバーペイントHTC

EPDMを主成分とした溶剤型塗料です。乾燥が速く、密着性・光沢・隠蔽性に優れます。

カバーペイントYTC

変性アクリル樹脂を主成分とした水性エマルション型の高反射・高耐候塗料です。含有している紫外線安定剤(ハルス)と高反射顔料により優れた耐候性と高反射効果があります。

SDフロアコート

耐摩耗性に優れた骨材を既配合した軽歩行用塗料です。厚塗りが可能で吸水率が少なく、防滑性があります。清水を1～3%加えて攪拌してから使います。



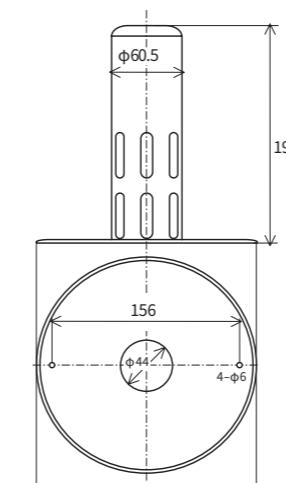
標準色 (詳細はペイント色見本をご覧ください)

WTC	WTC-10 シルバー	WTC-12 ブラウン	WTC-13 グリーン	WTC-14 ライトグレー	WTC-15 グレー
HTC	HTC-10 シルバー	HTC-12 ブラウン	HTC-13 グリーン	HTC-15 グレー	
YTC	ライトグリーン	ライトグレー	グレー		
SDフロアコート	SD-10 グレー	SD-11 ライトグレー	SD-13 グリーン		

脱気装置

耐久性に優れたステンレス製の脱気装置です。ニッタパステシートと併用することで、下地から発生する水蒸気を排出してシートのフクレを防止します。

ベントS寸法図



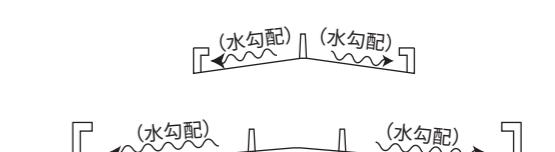
付属品: ブラグレスアンカー4本
(呼び径: 5.0mm 首下長さ: 35mm 穿孔径: 4.5mm)

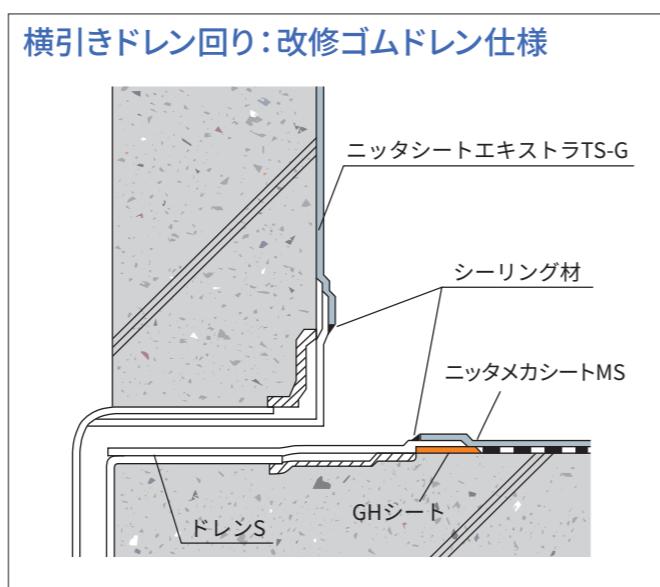
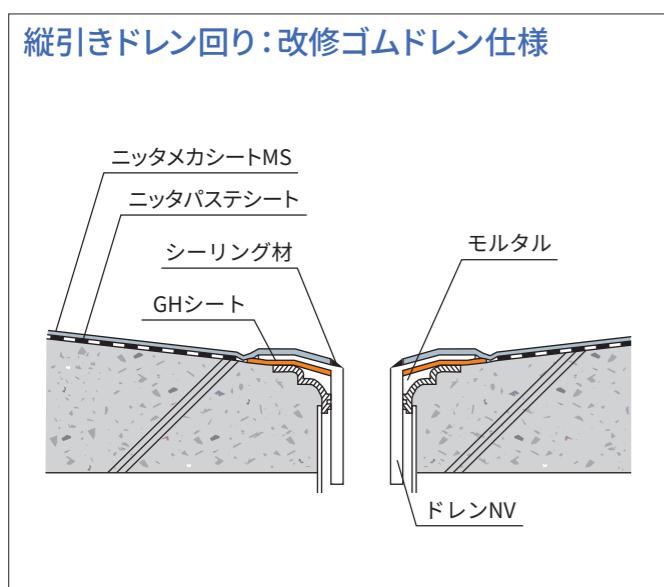
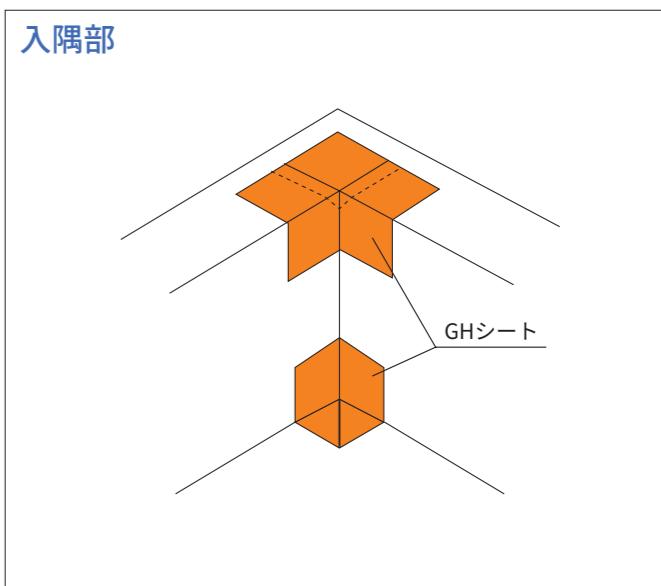
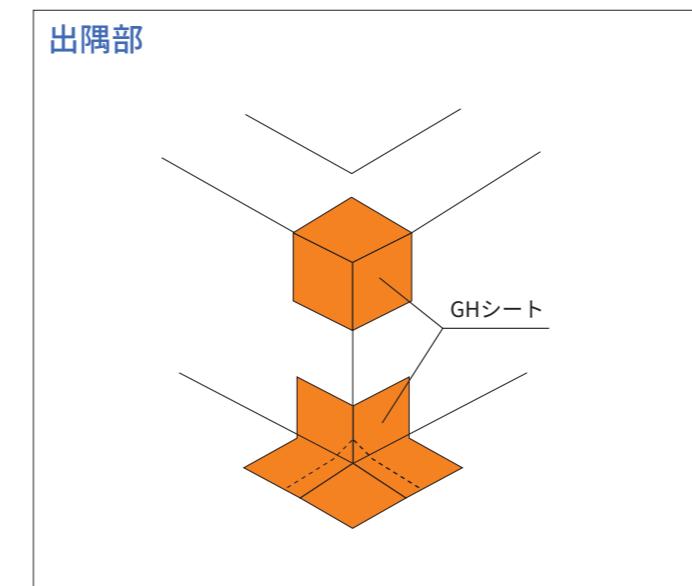
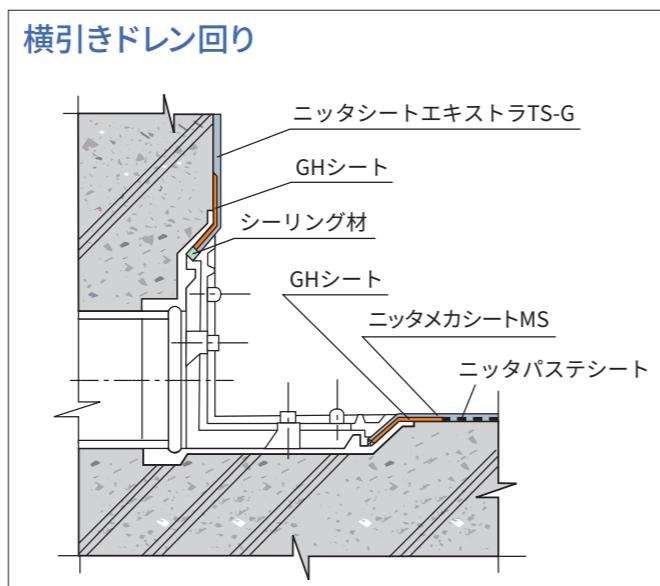
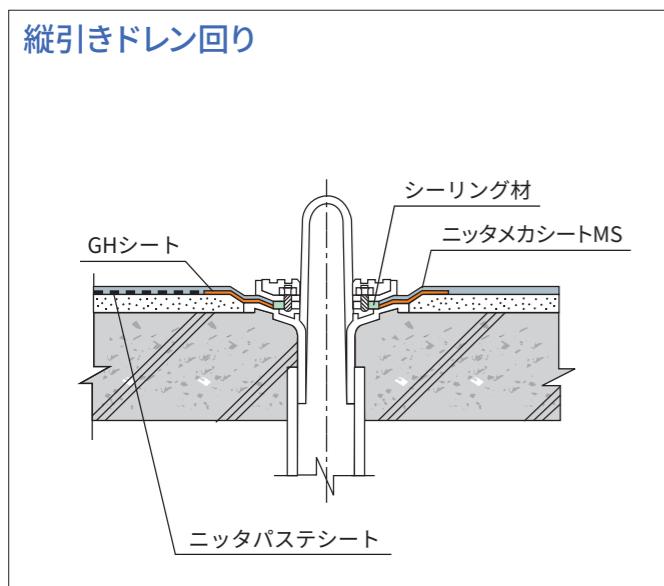
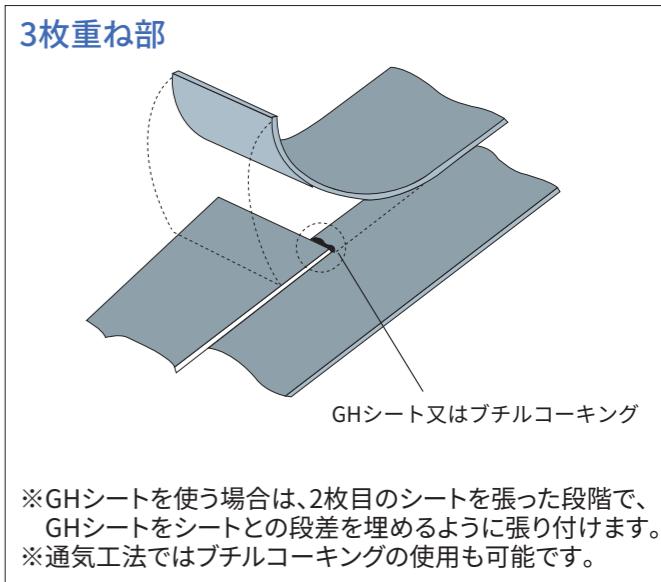
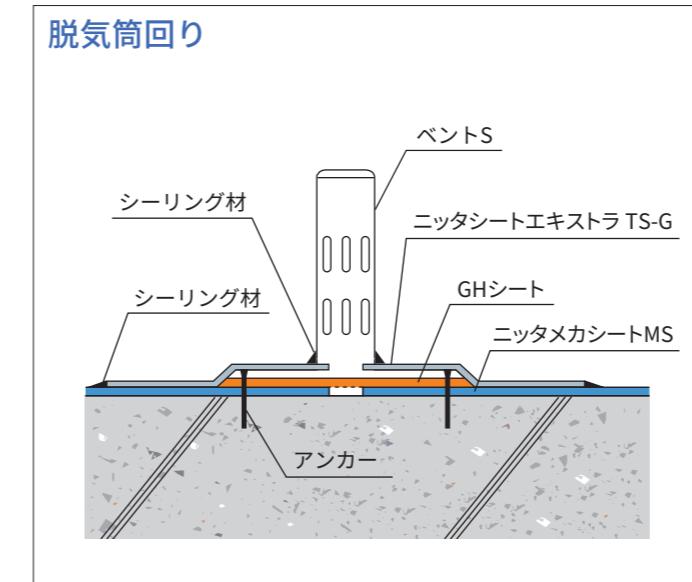
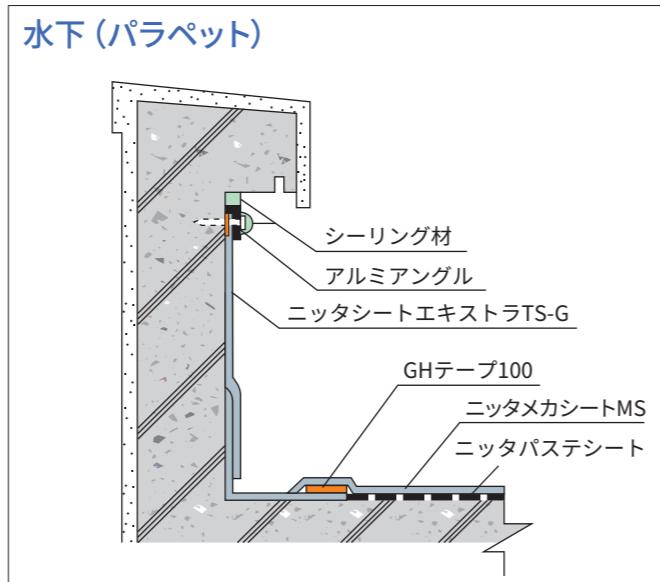
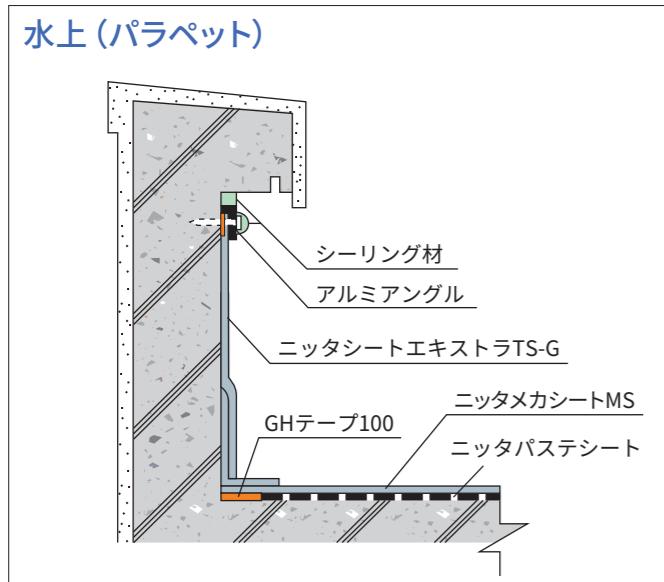
ベントS納まり例

片勾配の場合



両勾配の場合





注意事項

保管に関するご注意

製品を安全に、安心してご使用いただくために、ご使用の前に必ずお読みいただき、必ずお守りください。各製品の取扱詳細につきましては、SDS(安全データシート)をご参照ください。

表示の説明	危険 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることがあります。	 やってはいけない内容
	警告 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う可能性があります。	
	注意 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が障害を負う可能性および物的損害が発生する可能性があります。	 必ず実施して頂く内容

シート防水材について

注意

- ▶ 高温や直射日光を避け、換気のよい屋内保管を原則としてください。
- ▶ シートを長期間井桁に積むとシートの自重でクセがつくことがあります。シート展開時の施工がおこないにくくなりますので注意してください。
- ▶ 倒れたり転がらないように、適切な治具やストッパーを用いてください。
- ▶ 鋭利なもので傷がつかないように注意し、床を引きずらないようにしてください。

副資材について

注意

-  缶類の取っ手は、手でさげるためのものです。ロープなどで吊り下げるとき取っ手が取れ脱落するおそれがありますので、そのような使用は避けてください。
- ▶ 高温や直射日光を避けて、乾燥した冷暗所にて、部外者や子供の出入りできない場所に密閉して保管してください（特にカバーペイント WTC-10 には活性な顔料を使用していますので、高温時には反応によりガスが発生することがあります）。
- ▶ エマルジョン系を主成分とする材料は、0°C以下の気温で放置すると凍結のおそれや、成分が変質することがあります。
- ▶ 缶類は中身が漏れないように横倒しせずに開口部を上にして置き、衝撃を与えると破損しないように扱ってください（特にカバーペイント WTC-10 は口金部にガス抜きのための特殊な細工がしてありますので、注意してください）。
- ▶ 取扱いに際し、関連法規の規制を受けるものがあります。指定数量を順守し、火気に注意して安全な場所に保管してください。有機溶剤を含んでいますので、安全と衛生に注意してください。

!

商品名	消防法	労働安全衛生法
ブチルコーティング	危険物第2類 引火点：40°C未満 指定数量：1,000 kg	第2種有機溶剤含有物 (危険等級Ⅲ)

- ▶ 有機溶剤を含んだ材料をみだりに摂取、吸引したり、その目的のために所持すると罰せられることがありますので、注意してください。
- ▶ 一度開缶したものは使いきってから産廃処理をしてください。やむをえず残った材料は完全密封し、できるだけ早い時期に使いきってください。
- ▶ 取扱いする際には、必ず製品ラベルの注意事項をお読みください。必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

施工に関するご注意

製品を安全に、安心してご使用いただくために、ご使用の前に必ずお読みいただき、必ずお守りください。各製品の取扱詳細につきましては、SDS(安全データシート)および施工要領書をご参照ください。

表示の説明	危険 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることがあります。	 やってはいけない内容
	警告 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う可能性があります。	
	注意 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が障害を負う可能性および物的損害が発生する可能性があります。	 必ず実施して頂く内容

天候について

注意

- ▶ 施工時の天候が降雨時、降雨が予想される場合、降雨後で下地が未乾燥の場合は、施工を中断してください。
- ▶ 強風で施工に支障のある場合は、施工を中断してください。
- ▶ 外気温が5°C以下で接着が妨げられるおそれのある場合は施工しないでください。

下地について

注意

- ▶ 施工する下地は十分に乾燥させてください。
- ▶ 下地の含水の程度は、晴天時に下地を1m角程度の黒いビニールシートなどで覆って周辺4辺を密閉した後、一昼夜経過後の下地の湿り具合(ぬれ色有無等)で確認する方法があります。
- ▶  下地のエッロ、レイターンは確実に取り除き、油の付着がある場合はハツリ取ってください。
- ▶  金ゴテ仕上程度とし、鏡面仕上げはおこなわないでください。接着不良の原因となる場合があります。
- ▶  下地が粗面で劣化している場合はポリマーセメントモルタル等で下地調整をおこなってください。
- ▶  改修の場合は必要に応じて適切な下地処理をおこなってください。

作業環境について

警告

- ▶  通気の悪い場所(地下・室内等)での溶剤型プライマーの使用は避けてください。
- ▶  通気不良の場所で溶剤型材料を使用する時は、防爆型換気装置を設置してください。

防水材料について

注意

- ▶  業務用とし、カタログ記載の仕様に限定してご使用ください。
- ▶  飲料水および食品と直接触れる使い方はしないでください。
- ▶  必要な場合は当社標準施工要領書をご請求いただき、記載事項をご確認ください。

下地調整材について

注意

- ▶  皮張り防止のため、開封後は必ず密閉して保管し、使用前によく攪拌してご使用ください。
- ▶  下地を清掃し、塵、泥土、レイターンを十分に除去してから施工してください。

プライマー、ペイント類の扱いについて

警告

- ▶  有機溶剤を含んだ製品を使用する場合には、安全と衛生に注意し、火気厳禁としてください。また、適切な保護具を着用してください。

役物回りの処理について

注意

- ▶  使用時にはよく攪拌してください(特にペイント類は固形分が缶底に沈降している場合があります)。
- ▶  水や溶剤を加えて希釈しないでください(SDフロアコートは除く)。
- ▶  出・入隅角、役物回りについてはGHシートを必ず増し張りし、入隅はステッチャーローラーで転圧してください。
- ▶  GHシートは熱風融着機で加温し、十分に軟化させて使用してください。

パステシートの張付けについて

⚠ 注意

- シートの張付けはエアを巻き込まないようにおこない、接合が一直線に揃う位置で敷設して、張付け後は十分に転圧してください。転圧はローラーパケでシート中心部から幅方向にエア抜きをおこなった後、大ローラーで幅方向に転圧してください。
- シート同士の隙間がないように突きつけて敷設してください。

シートの張付けについて

⚠ 注意

- シートの張付けはエアを巻き込まないようにおこない、接合線が一直線に揃う位置で敷設して、張付け後は十分に転圧してください。転圧はローラーパケでシート中心部から幅方向にエア抜きをおこなった後、大ローラーで幅方向に転圧してください。
- 入隅線はステッチャーローラーを用いて転圧してください。
- シートの接合幅は 100 mm 以上とし、必ず GH テープを挿入してください。
- GH テープはジョイントから 1 ~ 3 mm はみ出るように張り付けてください。
- 加温する熱風融着機の温度を 300 ~ 400°C で設定してください。その際にシートを焦がさないように注意してください。
- 平場からの立上り面（横ライン）は接合幅 150 mm 以上としてください。
- シートの三枚重ねには GH シートをシートとの段差を埋めるように張り付けてください。

フクレの発生について

⚠ 注意

- シートのフクレが発生する原因是、水分、空気、残留溶剤の影響によるものです。これらが太陽熱に暖められて気化膨脹してフクレが発生しますので、施工時には注意してください。

原因	対 策
水 分	下地の乾燥・脱気工法の採用
エ ア	シート張付け時に空気を巻き込まない。

不定形シール材について

⚠ 注意

- シーリング材は防水の補助材として使用してください。
- ブチルコーキングは溶剤を含みますので、大量に打設するとシートが膨潤することがありますので注意してください。

シートの端末処理について

⚠ 注意

- シートの端末には剥離防止のため、押え金物を取り付けてください。
- 押え金物は下地に合わせたビスを用いて両端から 100 mm 以下、5 本以上 / 2m で固定してください。
- ビスの頭上および押え金物の端末には必要に応じて、变成シリコーン系シーリング材を打設してください。
- 变成シリコーン系シーリング材を使用する場合は、シーリング材製造業者の仕様に従ってください。

保護仕上塗料の塗布について

⚠ 注意

- エマルジョン系塗料は乾燥前の結露で密着不良や白化が生じないよう、冬季の日没前などは作業時間に配慮してください。
- シート表面にチョーキングが生じている場合は密着不良の原因となることがあります。塗り替えをおこなう場合は、事前に予備テストをおこない、異常のないことを確認してください。

- カバーペイント HTC は液溜りができるほど一度に大量に塗布しないでください（シートと下地との密着が弱くなっている場合には、溶剤系塗料を塗布すると、シートが膨潤するおそれや、シワの寄ることがあります）。
- エマルジョン系塗料の上にカバーペイント HTC を塗り重ねることはやめてください。溶剤により密着不良や変色の原因となることがあります。

防水層使用に関するご注意 防水層が長期間にわたり安定した性能を保持できるよう、遵守をお願いします。

表示の説明	危険	この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることがあります。	 やってはいけない内容
	警告	この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う可能性があります。	
	注意	この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が障害を負う可能性および物的損害が発生する可能性があります。	

共通事項

⚠ 注意

- 防水層の上に油、酸等の腐蝕性の液体や化学的の侵蝕物、アルカリ防藻剤（クーリングタワーに使用）などの薬品、ガソリン、塗料、有機溶剤等をこぼさないでください。また、防水層上のダクトや煙突から油煙の混じった排気のないようにしてください。防水層の変色、膨潤、劣化などが起きて、防水機能を損なうおそれがあります（押え層がある場合でも目地部などにより浸透する可能性があります）。
- 屋上やその周辺の増築あるいは改築工事をおこなう場合は、工事前に元請業者に連絡し、十分な検討をおこなってください。防水層を損傷させたり、雨水の流れが変化し、漏水に繋がるおそれがあります。
- 設計時に予定した以外の用途に使用目的を変更する場合は、防水層に損傷を与えるおそれがあるので、工事前に元請業者にご連絡ください。

露出防水仕様の注意事項

⚠ 警告

- 防水層の表面が濡れている場合、滑りやすいので注意して歩行してください。足を滑らせて転倒、負傷するおそれがあります。
- 防水層の接合部には段差があるので、躊躇なうよう、注意して歩行してください。

-  防水層の上またはその付近で花火やタバコの投げ捨てなどはやめてください。防水層を燃焼させたり変質させるおそれがあります。

⚠ 注意

- 歩行する際は靴底の柔らかい履物を使用してください。また強い衝撃を与えないように注意してください。
- 防水層上で作業をする場合は必要に応じて合板、ブルーシートなどで養生をおこない、防水層を保護してください。カッターナイフ等の使用は防水層に損傷を与えるおそれがあります。
- 避雷針・アンテナ・空調機器等を設置する場合は、防水層上に直接設置せずにゴム板などの下敷き材の上に設置してください。ただし、防水層を新しく貫通させる作業はできません。

- 歩行の際は走ったり跳んだりしないでください。防水層を傷つけるおそれがあります。
- 次の行為は防水層を傷つけ、漏水の原因となりますので、おこなわないでください。
 - 金属製ティキブラシ等でこすること
 - スパイクシューズ、ハイヒール、雪靴等突起物のある履物での歩行
 - ゴルフの練習、ハンマーやスコップ等で強い衝撃を与えること
 - 自転車や一輪車の運転をすること
 - 清掃や雪下ろしをおこなう際に、鋭利な道具を使用すること
 - 重量物を落させたり引きずること
-  防水層の上には、設計時に予定した以外の重量物や鋭利な物、振動物や恒久的な物は置けません。重量物による防水層の変形や損傷のおそれがあります。
- 防水層上に重量物を落したり、鋭角なもので傷をつけないでください。寒冷地では特に雪おろし時にスコップで防水層に傷をつけないように注意してください。
- 防水層の上では動物の飼育をしないでください。動物が爪や歯で防水層を傷つけたり、排泄物により防水層が変色する場合があります。
- 防水層の上での植栽はおこなわないでください。排水口を詰まらせたり、植物の根が防水層を損傷させるおそれがあります。
- 鏽を発生させる物、腐食・腐敗する物、高温になる物を置かないでください。

非歩行仕様の注意事項

⚠ 注意

-  屋上または防水層の維持、点検のとき以外は防水層の上を歩かないでください。防水層上の利用はできません。

軽歩行仕様の注意事項

⚠ 注意

- 防水層上の利用は、ベランダ・物干し場・休憩場等に限ります。
- 防水層の上で運動や自転車の運転をしないでください。防水層に損傷を与えるおそれがあります。
- 防水層上にテーブル、イス等を置いたりスノコを敷く場合は、接地部を保護養生してください。

-  不特定多数の方の歩行が予想される用途には向ません。

維持管理に関するご注意 防水層の機能を長期間維持するために、建物の管理者は以下の項目に従って維持管理をお願いします。

表示の説明	危険 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることがあります。	 やってはいけない内容
	警告 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が死亡または重症を負う可能性があります。	
	注意 この表示を無視して、誤った取扱いをした場合、人が障害を負う可能性および物的損害が発生する可能性があります。	 必ず実施して頂く内容

※ここで表記する防水層とは、特に断りの無い限り、防水層が表面に現れている場所(露出防水)を意味します。

点検について

注意

- ▶ 防水層は定期的に点検してください。台風通過前後や気象災害発生後は必ず点検を実施してください。
- ▶ 防水層に次のような異常を認めた場合、漏水が発生した場合は、放置せず直ちに請負業者に連絡して、補修工事を検討してください。
 - ⚠ 防水層の接合部が剥離している。
 - ⚠ 仕上塗料が剥離しているか、またはすり減って防水層が表面に出ている。
 - ⚠ 防水層が破れたり、穴があいている。
 - ⚠ 防水層にフクレ(膨れ)している部分がある。
 - ⚠ 押え層(保護モルタル)に盛り上がりや欠損がある。
 - ⚠ 防水末端部の押え金物、笠木等の取付けがゆるんでいる。
 - ⚠ 防水シートを張り付けたパイプや手すりが錆びている。
- ▶ 外壁およびパラペット天端や笠木部、手すり基礎や架台類、貫通役物やトップライトなどには防水が施されていないことがあります。防水層のない部分には別途、点検とメンテナンスを実施してください。

清掃について

注意

- ▶ ドレン・側溝・隅(吹き溜まりが生じやすい部位)回りは定期的に清掃し、土や落葉などのゴミ・堆積物・草木は取り除いてください。ドレン等の詰まりによるオーバーフローは漏水の原因になります。
- ▶ 防水層表面の清掃は、シート接合部の重なり合う上側のシートから下側のシート側(端末側)の方向へ清掃してください。逆方向におこなうとシート接合部に負荷がかかり、劣化が早まるおそれがあります。
- ▶ 防水層の洗浄に洗剤を使用する場合は、台所用中性洗剤もしくは使用用途にサッシと明記された住宅・家具用中性洗剤を使用してください。作業には柔らかい布またはスポンジを用いて、使用後は水洗いをして洗剤が残らないようにしてください。



- ▶ 防水層の上で清掃や雪下ろしに鋭利な道具を使用しないでください。防水層を傷つけるおそれがあります。
- ▶ デッキブラシ、金属ブラシ、金属タワシ、ポリッシャー等の固いもので清掃しないでください。防水層を傷つけるおそれがあります。

保守について

注意

- ▶ 開放式冷却塔(クーリングタワー)に使用する水処理剤・化学洗浄剤は、原液(薬剤)を防水層上(押え層がある場合も含む)に飛散させないように注意し、適正な使用量(濃度)で使用してください。防水層上に付着した場合は水で洗い流してください。また防水層上にオーバーフローしないよう、設備機器の保守管理を適切におこなってください。
- ▶ 防水層上に脱気装置がある場合は、破損しないように注意してください。
- ▶ 防水層の性能を長期間維持するために、仕上塗料は有償で定期的に塗り替えをおこなってください(高耐候塗料を除く)。仕上塗料の塗り替えをおこなう場合は、材料製造業者指定のものとし、必ず請負業者にご相談ください。なお、沿岸部や工業地帯等、環境条件の厳しい場所では塗り替えが必要となる時期が早まる場合があります。
- ▶ 不定形シール材は定期点検時の状態により、打替えを実施してください(有償工事)。
- ▶ 新規に工作物(看板等)・設備機器(避雷針・アンテナ・空調設備等)の設置をおこなう場合は、防水層上に直接設置せずにゴム板等の下敷き材の上に設置してください。
- ▶ 設備機器等の設置のためにアンカー等で防水層を貫通すると漏水の原因になります。
- ▶ 防水に関わる屋上やその周辺の増改築工事をおこなう場合、および設計時に予定した以外の用途に使用目的を変更する場合は、事前に請負業者にご相談ください。



- ▶ 煙突、排気口、ダクトから油煙の混じったミストや排気(食堂厨房からの排気)のないようにしてください。油煙の影響を受けて防水層が変色、膨潤、劣化して防水機能を損なうおそれがあります。

不明な点は事前に施工業者にお問い合わせください。

必要な場合は、合成高分子ルーフィング工業会(略称KRK)発行のパンフレット「防水層維持管理上のお願い」をご請求ください。

ニッタ化用品株式会社

<https://www.nitta-ci.co.jp/>

広域販売事業グループ

西日本営業部

近畿・山陰エリア	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4-4-26	ニッタビル	TEL 06-6563-1206
中国・四国エリア	〒761-8071	香川県高松市伏石町2018-13		TEL 087-869-1595
九州・沖縄エリア	〒812-0007	福岡県福岡市博多区東比恵4-4-7		TEL 092-411-8303
東日本営業部				
関東・甲信越エリア	〒104-0061	東京都中央区銀座8-2-1	ニッタビル	TEL 03-6626-5547
北海道・東北エリア	〒060-0042	札幌市中央区大通西8丁目2-39	北大通ビル8階B	TEL 011-218-7280
	〒984-0051	宮城県仙台市若林区新寺1-2-26	小田急仙台東口ビル6階	TEL 022-292-1855
東海・北陸エリア	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南1-17-23	ニッタビル	TEL 052-551-5611

防水専用ホームページアドレス <https://nitta-roofing.com>

- 本カタログに掲載の内容は予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- カタログと実際の色とは印刷の関係で少し異なる場合があります。
- カタログのイラストは特徴を示したもので、現物とは外観の差異があります。
- カタログの記載事項は一般的な取扱いおよび標準的な場合のものです。特殊な条件下では異なる場合もありますので別途ご相談ください。



弊社は40年の実績を誇るシート防水材料の優良
メーカーの団体である当工業会の加盟会社です

合成高分子ルーフィング工業会
<http://www.krkroof.net>